ASPイッツフォーリーズ公演

音楽劇

獅子吼

ししく

けつして瞋るな

原作　浅田次郎「獅子吼」（『獅子吼』文春文庫 所収）
脚本　シライケイタ（温泉ドラゴン）
演出　和田憲明（ウォーキング・スタッフ）
音楽　小澤時史

画　Toshi　toshi_world_art
題字　璃奏

第353回/2026年
旭川市民劇場
11月例会

10月31日（土）午後6:30
11月1日（日）午後1:30

旭川市公会堂
旭川市常磐公園

旭川市民劇場
旭川市3条通8丁目
緑橋ビル1号館2F
☎0166-23-1655

原作　浅田次郎「獅子吼」(『獅子吼』文春文庫所収)
脚本・作詞　シライケイタ(温泉ドラゴン)
演出　和田憲明(ウォーキング・スタッフ)
音楽　小澤時史

ASPイッツフォーリーズ公演　音楽劇

獅子吼

ししく


獅子　井上一馬


獅子の妻　大川 永


草野二等兵　東倫太朗


鹿内兵長　桑原 泰(文化座)


准尉・駱駝　南保大樹


コロス　吉本穂果


コロス　吉田美緒


コロス　鳴 梓紗


コロス　田中音葉

【演奏】
成尾憲治(Gt.)／佐藤颯太(Gt.)
吉田貴博(Per.)

【ものがたり】戦争の足音が日増に強くなる頃、東北地方のとある港町。そこには、かつて町の子どもたちを笑顔にしていた小さな動物園があった。
「決して瞋(いか)るな。瞋れば命を失う」
という父の訓えを守り、動物園で運命を受け入れて、静かに暮す老獅子。かつての百獣の王は檻の中で妻をめとり、子をもうけ、決して人間に瞋りを見せることなく安らかに生きていた。
やがて、人々が動物に癒されていた時代は過ぎ、近づく戦火に家族や自分の命さえ危うくなって来ていた。動物園も例外ではなかった。戦況は悪化の一途をたどり、市井の人々の食料は底をつき、動物たちに分け与える餌の余裕などある訳もなかった。
そんな中、少ない食料を工面しながら動物の面倒をみていた飼育員の草野も招集されてしまう。子を奪われ、妻も亡くし、死を待つばかりの獅子の前に現れたのは、兵隊となり銃を抱えた草野だった。戦争下の過酷な状況に苦しむ人間たちを前に、獅子が父の訓えを破る時が……。

【演劇鑑賞団体の皆さまへ】イッツフォーリーズ＝オリジナルミュージカル先駆者、作曲家いずみたくが1977年創立。来年50周年を迎える。原作は浅田次郎の短編です。戦時猛獣処分が頻繁に行われるようになった戦争末期、釜石の艦砲射撃の襲撃を思わせる架空の動物園を舞台に、一頭のライオンと、その飼育係の男の魂を揺さぶる物語が展開します。草原を奪われ、動物園の檻に閉じ込められた雄ライオン。一方、動物の言葉がわかる不思議な能力を持つ飼育係の男は、弱っていく動物たちを救うために危険な行為をし、そして上官から下された最も辛い命令を受けます。目前の生と死、そして怒りの咆哮。ギターとパーカッションの生演奏が織りなす、息を呑むような音楽と、緊張感張り詰めた人間と動物の魂の声。演出はリアリズム表現の第一人者、和田憲明。忘れかけていた人間の尊厳、そして愛の力……獅子の瞋りの声の中に、今の社会に通じる何かを伝えたいと思います。
プロデューサー　土屋友紀子

【スタッフ】　美術＝多賀 慧(黒組)　振付＝吉本由美　衣裳＝小泉美都(蜂號)　かつら＝吉川 潔(アトリエ・パネンカ)
歌唱指導＝松原剛志(エルアンドエル・ビクターエンタテインメント)　方言指導＝多田純也(ただじゅん企画)
照明＝芥川久美子(ライトシップ)　音響＝横張史靖(キャンビット)　映像＝浦島 啓(コローレ)　演出助手＝有坂美紀
舞台監督＝澤 麗奈、澤根奈摘実(オプリガート)　宣伝写真＝岩田えり　宣伝ヘアメイク＝見目智代
協力＝株式会社文藝春秋、有限会社石井光三オフィス、株式会社A4、有限会社オーチャード、東宝芸能株式会社、劇団文化座
主催＝北海道演劇鑑賞団体連絡会、九州演劇鑑賞団体連絡会議
企画・制作＝株式会社オールスタッフ、ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズ　プロデューサー＝土屋友紀子